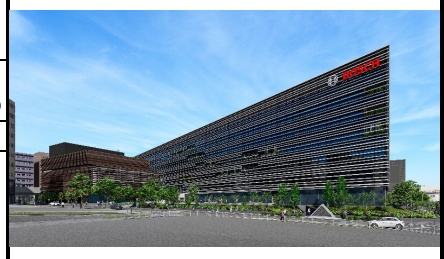




1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)Bosch Fusion Project	階数	地上7F、地下2F
建設地	横浜市都筑区中川中央一丁目9番1、2	構造	S造
用途地域	防火地域、商業地域	平均居住人員	2,218 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,214 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、集会所、工場、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年8月 竣工	評価の実施日	2024年7月11日
敷地面積	12,038 m <sup>2</sup>	作成者	吉田 徹
建築面積	8,190 m <sup>2</sup>	確認日	2024年7月11日
延床面積	58,667 m <sup>2</sup>	確認者	藤澤寛久



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 3.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (184 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み: 65% (92 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の: 65%

④上記+: 65%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 3

Q3 室外環境(敷地内): 2

LR1 エネルギー: 1

LR2 資源・マテリアル: 2

LR3 敷地外環境: 3

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.0

**LR のスコア = 4.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> ・神奈川県横浜市に新設される、事務所・集会所・飲食店の複合施設である。 ・外皮性能を高め、高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図るとともに、ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出量の低減に努めている。		<b>その他</b> -
<b>Q1 室内環境</b> ・ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用し、全館禁煙として室内の良好な空気質環境の確保を図っている。	<b>Q2 サービス性能</b> ・免震装置を採用している。 ・将来の用途変更の可能性等を考慮し、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・外構の植栽だけでなく、屋上への積極的な建物緑化により、生物環境の創出や温熱環境の向上に配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> ・外皮性能を高め、効率のよい空調機器・全面的なLED照明の導入など、高効率な設備システムを導入することで省エネルギー化を図っている。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。 ・躯体と仕上材の分離が容易であり、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。 ・駐車場の確保や出入りのしやすい駐車場計画により、交通渋滞緩和に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



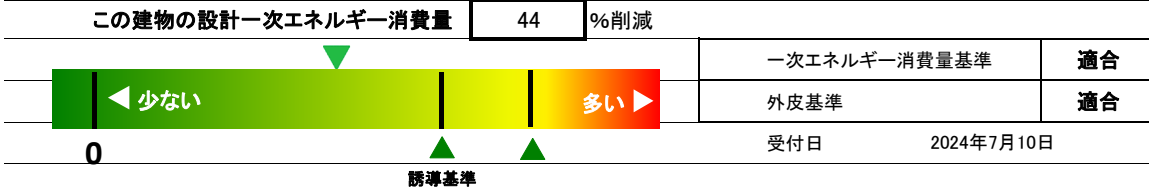
### 4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)Bosch Fusion Project

#### 建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 **5**

##### ■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



##### ■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

断熱性能の高い外皮材料を使用  
 主要な用途別エネルギー消費内訳を把握できる

#### 健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 **4**

##### ■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

アメダス気象データを用いて卓越風を把握。昼光率:2.5%以上。  
 窓面積を多くし、快適な室温が実現できる計画。35㎡/人以上の換気量を確保

##### ■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

リフレッシュスペース÷執務スペース:1%以上

##### ■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

屋上への積極的な建物緑化により、生物環境の創出や温熱環境の向上に配慮

#### 防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 **4**

##### ■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

免震装置を採用  
 耐用年数の長い外装仕上げ材を使用  
 節水機器の採用、非常時用汚水槽の設置等

#### 地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 **4**

##### ■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

敷地とその周辺の生物環境の立地特性を把握  
 周辺の街並みとの調和に配慮し、ボリュームの分節や目立ちすぎず品位を感じさせる外装などの計画

#### 太陽光発電などの導入



太陽光利用

#### 環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

#### エネルギーマネジメントシステム導入

— —



CASBEE横浜2017年版v.1.7  
(仮称)Bosch Fusion Project

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>					-		-			<b>3.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.38</b>		-			<b>3.9</b>
<b>1 音環境</b>				<b>4.1</b>	0.15	-	-			<b>4.1</b>
1.1 騒音				3.7	0.40	-	-			-
1.2 遮音				<b>5.0</b>	0.40	-	-			-
1 開口部遮音性能				5.0	0.64	-	-			-
2 界壁遮音性能				5.0	0.36	-	-			-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-			-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-			-
1.3 吸音				<b>3.1</b>	0.20	-	-			-
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.3</b>	0.35	-	-			<b>3.3</b>
2.1 室温制御				<b>3.8</b>	0.50	-	-			-
1 室温		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.38	-	-			-
2 外皮性能		快適・働きやすさ	健康・安心 ⑨温熱環境 ⑤外皮性能	5.0	0.25	-	-			-
3 ソーン別制御性		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.9	0.37	-	-			-
2.2 湿度制御				<b>3.2</b>	0.20	-	-			-
2.3 空調方式				<b>2.8</b>	0.30	-	-			-
<b>3 光・視環境</b>				<b>4.2</b>	0.25	-	-			<b>4.2</b>
3.1 昼光利用				<b>4.5</b>	0.31	-	-			-
1 昼光率		快適・働きやすさ	⑩光環境	5.0	0.59	-	-			-
2 方位別開口		快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	-	-			-
3 昼光利用設備		快適・働きやすさ	⑩光環境	4.0	0.41	-	-			-
3.2 グレア対策				<b>4.0</b>	0.27	-	-			-
1 昼光制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	4.0	1.00	-	-			-
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15	-	-			-
3.4 照明制御				<b>4.8</b>	0.27	-	-			-
<b>4 空気環境</b>				<b>4.3</b>	0.25	-	-			<b>4.3</b>
4.1 発生源対策				<b>4.9</b>	0.50	-	-			-
1 化学汚染物質		快適・働きやすさ	⑪空気環境	4.9	1.00	-	-			-
4.2 換気				<b>3.7</b>	0.30	-	-			-
1 換気量		快適・働きやすさ	⑪空気環境	5.0	0.33	-	-			-
2 自然換気性能		快適・働きやすさ	⑪空気環境	3.0	0.33	-	-			-
3 取り入れ外気への配慮		快適・働きやすさ	⑪空気環境	3.1	0.33	-	-			-
4.3 運用管理				<b>4.0</b>	0.20	-	-			-
1 CO <sub>2</sub> の監視		快適・働きやすさ	⑪空気環境	3.0	0.50	-	-			-
2 喫煙の制御		快適・働きやすさ	⑪空気環境	5.0	0.50	-	-			-
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>	-	-			<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.2</b>	0.40	-	-			<b>3.2</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>2.4</b>	0.40	-	-			-
1 広さ・収納性		快適・働きやすさ	⑫機能性	1.0	0.29	-	-			-
2 高度情報通信設備対応		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.29	-	-			-
3 バリアフリー計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.41	-	-			-
1.2 心理性・快適性				<b>4.1</b>	0.30	-	-			-
1 広さ感・景観		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.30	-	-			-
2 リフレッシュスペース		快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.29	-	-			-
3 内装計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.41	-	-			-
1.3 維持管理				<b>3.5</b>	0.30	-	-			-
1 維持管理に配慮した設計		快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.50	-	-			-
2 維持管理用機能の確保		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	-	-			-
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.5</b>	0.30	-	-			<b>3.5</b>
2.1 耐震・免震				<b>3.4</b>	0.50	-	-			-
1 耐震性		防災	⑮耐震・免震	3.0	0.80	-	-			-
2 免震・制振性能		防災	⑮耐震・免震	5.0	0.20	-	-			-
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.8</b>	0.30	-	-			-
1 躯体材料の耐用年数		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-			-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.10	-	-			-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-			-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	4.0	0.20	-	-			-
6 主要設備機器の更新必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
2.4 信頼性				<b>3.6</b>	0.20	-	-			-
1 空調・換気設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
2 給排水・衛生設備		防災	⑰信頼性	4.0	0.20	-	-			-
3 電気設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
4 機械・配管支持方法		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
5 通信・情報設備		防災	⑰信頼性	5.0	0.20	-	-			-



CASBEE横浜2017年版v.1.7  
(仮称)Bosch Fusion Project

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
		<b>3 対応性・更新性</b>				<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
3.1 空間のゆとり				<b>4.5</b>	0.30	-	-	-		
1 階高のゆとり				5.0	0.54	-	-	-		
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.46	-	-	-		
3.2 荷重のゆとり				<b>4.0</b>	0.30	-	-	-		
3.3 設備の更新性				<b>3.6</b>	0.40	-	-	-		
1 空調配管の更新性				4.0	0.20	-	-	-		
2 給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	-		
3 電気配線の更新性				5.0	0.10	-	-	-		
4 通信配線の更新性				5.0	0.10	-	-	-		
5 設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	-		
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	-		
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.32	-	-	<b>4.0</b>		
1 生物環境の保全と創出		地域・まちづくり	⑧生物環境の保全と創出	<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>		
2 まちなみ・景観への配慮		地域・まちづくり	⑨まちなみ・景観への配慮	<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>		
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>		
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		地域・まちづくり	⑩地域性への配慮	<b>4.0</b>	0.50	-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上		快適・働きやすさ	⑪敷地内温熱環境の向上	<b>4.0</b>	0.50	-	-	-		
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-	<b>4.0</b>		
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-	<b>4.6</b>		
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>		
2 自然エネルギー利用		省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	4.0	0.10	-	-	<b>4.0</b>		
3 設備システムの高効率化		省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>		
4 効率的運用				<b>3.5</b>	0.20	-	-	<b>3.5</b>		
集合住宅以外の評価				<b>3.5</b>	1.00	-	-	-		
4.1 モニタリング		省エネルギー性能	④効率的運用	4.0	0.50	-	-	-		
4.2 運用管理体制		省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-		
集合住宅の評価				-	-	-	-	-		
4.1 モニタリング		省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-	-		
4.2 運用管理体制		省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-	-		
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	-	<b>3.7</b>		
<b>1 水資源保護</b>				<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>		
1.1 節水				<b>4.0</b>	0.40	-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				<b>4.0</b>	0.60	-	-	-		
1 雨水利用システム導入の有無				4.0	0.70	-	-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無				4.0	0.30	-	-	-		
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				<b>3.8</b>	0.60	-	-	<b>3.8</b>		
2.1 材料使用量の削減				5.0	0.10	-	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				4.0	0.20	-	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.10	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				5.0	0.20	-	-	-		
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>		
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				<b>3.5</b>	0.70	-	-	-		
1 消火剤				-	-	-	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)				4.0	0.50	-	-	-		
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	-		
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30	-	-	<b>3.6</b>		
<b>1 地球温暖化への配慮</b>				<b>4.3</b>	0.33	-	-	<b>4.3</b>		
<b>2 地域環境への配慮</b>				<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>		
2.1 大気汚染防止				<b>5.0</b>	0.25	-	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				<b>3.0</b>	0.50	-	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				<b>3.5</b>	0.25	-	-	-		
1 雨水排水負荷低減				4.0	0.25	-	-	-		
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-		
3 交通負荷抑制				4.0	0.25	-	-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-		
<b>3 周辺環境への配慮</b>				<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>		
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				<b>3.0</b>	0.40	-	-	-		
1 騒音				3.0	1.00	-	-	-		
2 振動				-	-	-	-	-		
3 悪臭				-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				<b>3.0</b>	0.40	-	-	-		
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	-		
2 砂塵の抑制				-	-	-	-	-		
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	-		
3.3 光害の抑制				<b>3.0</b>	0.20	-	-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	-		
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	-		

# CASBEE<sup>®</sup>横浜 | 評価結果 | 3-088



CASBEE横浜2017年版v.1.7  
(仮称)Bosch Fusion Project

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
	<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
上記以外の重点項目								
<事務用途>								
知的生産性向上への取組	快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	3.0	-	-	-	-	
<住宅用途>								
健康と安心								
1 化学汚染物質の対策		健康・安心 ⑥健康対策	-	-	-	-	-	
2 適切な換気計画		健康・安心 ⑥健康対策	-	-	-	-	-	
3 結露・カビ対策		健康・安心 ⑥健康対策	-	-	-	-	-	
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)		健康・安心 ⑦防犯対策	-	-	-	-	-	